

教員用

---

# シラバス作成の手引き

---

2025 年度版

Ver. 3.71

# 目次

目次.....	i
■シラバスチェックリストの例.....	1
シラバスのサンプル.....	2
I. シラバス様式の変更について.....	4
II. シラバスのチェック体制.....	4
III. シラバスの項目について.....	6
1. ナンバリング.....	6
2. 授業科目名（科目の英文名）.....	6
3. 主に使用する言語、その他に使用する言語.....	6
4. 担当形態.....	7
5. 授業の概要.....	8
6. 具体的な到達目標・DP 等の対応.....	9
7. 授業の内容.....	15
8. アクティブ・ラーニング.....	16
9. その他の工夫.....	19
10. 授業時間外学修の内容と時間の目安.....	20
11. 教科書.....	22
12. 参考書.....	22
13. 成績評価の方法及び評価割合.....	23
14. 注意事項.....	24
15. 備考.....	24
16. リンク.....	24
17. 実務経験者.....	25
IV. 教務情報システム CampusSquare によるシラバス登録方法.....	27

## ■シラバスチェックリストの例

シラバスチェックの結果、並びにその改善の取組及び改善後の結果について各部局で取り纏めます。

シラバス項目等	番号	チェック項目	補 足																								
全般	□ 1	全項目において記入しており、空欄や「なし」、「特になし」等の項目はない	● 「その他の工夫」、「注意事項」、「備考」、「リンク」の項目、および担当教員の実務経験や教員以外で指導に関わる実務経験者が無い場合の「教員の実務経験の有無」、「実務経験」、「教員以外で指導に関わる実務経験者の有無」、「教員以外の指導に関わる実務経験者」、「実務経験をいかした教育内容」の項目は除く																								
授業の概要	□ 2	学生が理解できる表現にしている																									
具体的な到達目標	□ 3	学生を主体（主語）とした目標にしている	● 1つの目標に複数の内容を含んでいる場合は、分割を検討する（最大10項目） ● DPは、以下のように対応させてチェックし、関連度を入力する（ディプロマ・サプリメントの計算に使用）																								
	□ 4	「〇〇できる」といった、観察・測定可能で具体的な目標（知識・技能・態度）にしている																									
	□ 5	最も対応するDPの項目1つ（複数も可）にチェックしている																									
	□ 6	<u>チェックした各DPに対して、関連度が合計で10になるように数値を入力している</u>																									
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>DP</th> <th>学部共通</th> <th>大学院共通</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>専門的知識・技能の活用</td> <td>高度な知識と知的能力</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>コミュニケーション能力</td> <td>確かな研究マネジメント能力</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>創造的問題解決力</td> <td>社会を牽引する能力</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>社会的責務と倫理</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>地域発展・人類福祉への貢献</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>生涯学習力</td> <td>N/A</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>N/A ※医学部看護学科専門教育科目のみ 豊かな看護観</td> <td>N/A</td> </tr> </tbody> </table>	DP	学部共通	大学院共通	1	専門的知識・技能の活用	高度な知識と知的能力	2	コミュニケーション能力	確かな研究マネジメント能力	3	創造的問題解決力	社会を牽引する能力	4	社会的責務と倫理	N/A	5	地域発展・人類福祉への貢献	N/A	6	生涯学習力	N/A	7	N/A ※医学部看護学科専門教育科目のみ 豊かな看護観	N/A
DP	学部共通	大学院共通																									
1	専門的知識・技能の活用	高度な知識と知的能力																									
2	コミュニケーション能力	確かな研究マネジメント能力																									
3	創造的問題解決力	社会を牽引する能力																									
4	社会的責務と倫理	N/A																									
5	地域発展・人類福祉への貢献	N/A																									
6	生涯学習力	N/A																									
7	N/A ※医学部看護学科専門教育科目のみ 豊かな看護観	N/A																									
授業の内容	□ 7	「同上」や「ッ」、「前回と同じ」等の表現を用いず、すべての回で1回ごとの内容を記入している	● 授業時間外で実施する最終試験は内容に含めない																								
アクティブ・ラーニング	□ 8	実施するアクティブ・ラーニングのタイプ（A～D）に1つ以上チェックしている	● アクティブ・ラーニングを実施していない場合は、実施を検討する																								
	□ 9	実施するアクティブ・ラーニングの具体的な手法や内容等について記入している																									
授業時間外学修の内容と時間の目安	□ 10	具体的な事前・事後学修の内容を記入している	● 事前・事後学修の両方が設定されていない場合には検討する（記入例：「テキストを事前読んでおく(5h)」、「教材を用いて復習する(10h)」、「合格するまで小テストに取り組む(3h)」） ● 「一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成」するように、授業時間外学修の時間の目安の合計を設定する																								
	□ 11	事前・事後学修の内容ごとに、丸括弧内に授業時間外学修に要する目安の時間を記入している																									
	□ 12	<u>想定時間合計に、2単位の場合は「45」時間を、1単位の場合は「23」時間（整数入力のため22.5時間を繰り上げ）を満した値を記入している</u>																									
教科書	□ 13	著者名、書名、出版社、出版年、ISBNを記入している	● 教科書を使用しない場合は、「教科書を指定しない」、「資料を配付する」等を記入する ● 改版や絶版などの最新の情報を確認する																								
参考書	□ 14	著者名、書名、出版社、出版年、ISBNを記入している	● 参考書がない場合は、「参考書を指定しない」、「資料を配付する」等を記入する																								
成績評価の方法及び評価割合	□ 15	すべての評価方法に「割合」を百分率で記入し、合計を100%にしている	● 多様な評価方法（2つ以上）を用いていることが望ましい																								
	□ 16	「具体的な到達目標」で示した目標と評価との対応づけを行い、すべての「具体的な到達目標」について評価する方法を用意している																									
注意事項	□ 17	履修制限や履修条件があれば、記入している	● 開講科目一覧表の「備考」欄と同等の情報がシラバスでも確認できるようにする																								

シラバスのサンプル (PDF版の出力イメージ)

ナンバリング		授業科目名 (科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)										
AA42G113		創造的思考法 (Creative Thinking Skills)					全学共通主題 *大分を創る科目 【福祉・地域】 / (総合)										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語			担当形態							
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前学期	水 1	日本語				単独							
担当教員	氏名 大分 太郎																
	E-mail aaaaa@oita-u.ac.jp 内線 0000																
授業の概要	情報を整理・視覚化し、新たな発想を生み出すための手法について学ぶ。これらは、自由記述式の質問紙法、口頭による自由回答法の回答の分析をはじめ、企画、会議、プレゼン、人材育成、情報収集と分析などの場面で対応できる。大分の地域活性化に関するテーマでアイデアを出し、グループによるブレインストーミングを経て、創造的思考ができるようになることをめざす。 【全角 383 (半角 766) 字以内 (改行は全角 1 文字)】																
	具体的な到達目標																
						DP 等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7			
目標 1	アイデアや情報を整理・視覚化したマインドマップを作成できる。 【1つの目標につき全角 58 (半角 116) 字以内】								○								
目標 2	ブレインストーミングの意義や効果的な実施方法を説明できる。					○											
目標 3	ブレインストーミングによって、アイデアを創出できる。						○										
目標 4	親和図法図解法を用いて断片情報を階層的にまとめ、関係性を可視化できる。							○									
目標 5	大分の地域活性化を題材した親和図法図解法をもとに文章化できる。										○						
目標 6																	
目標 7																	
目標 8																	
目標 9																	
目標 10																	
各DPへの関連度 (計10)						1	2	6			1						
授業の内容																	
1	【ブロック1】オリエンテーション、マインドマップ練習: 「しあわせ」マインドマップを作成する。 【1回につき全角 74 (半角 148) 字以内】																
2	マインドマッピングとは、Xmindの使い方: Xmindで「しあわせ」マインドマップを作成する。																
3	自己分析マインドマップの作成: 自分自身についてのマインドマップを作成する。																
4	読書マインドマップの作成: 1冊の本からマインドマップを作成する。マインドマップのまとめ [課題1]																
5	【ブロック2】アイスブレイク、マシュマロチャレンジ: グループでマシュマロチャレンジをする。																
6	ブレインストーミングとは: 順番ブレインストーミングの練習をする。 [課題2]																
7	大分の地域活性化に関するブレインストーミング: グループで順番ブレインストーミングをする。 [課題3]																
8	【ブロック3】親和図法-紙切れ作り・紙切れ集め・表札づくり: ブレインストーミングの結果を紙切れにし集める。																
9	親和図法-グループのグループ化・空置配置: A型図解法の空置配置をする。																
10	親和図法-関係線の描画: A型図解法を完成させる。 [課題4]																
11	親和図法-B型文章化: B型文章化で発想する。 [課題5]																
12	【ブロック4】親和図法 (2) -A型図解法: 大分の活性化に関するブレインストーミングの結果を図解化する。																
13	親和図法 (2) -A型図解法 (2): A型図解法を完成させる。 [課題6]																
14	親和図法 (2) -B型文章化: B型文章化で発想する。 [課題7]																
15	総まとめと最終課題 [課題8]																
ラーニング	A:知識の定着・確認	○ 演習、小テスト、ルーブリックによる自己評価、					その他の工夫 アイスブレイク、動画の活用、LMS (Moodle) の活用、タスクは各自のペースで実施 【全角 110 (半角 220) 字以内 (改行は全角 1 文字)】										
	B:意見の表現・交換	○ グループ・ペアでの共同作業、省察ミニッツペーパー、マインドマップ、															
	C:応用志向	○ ブレインストーミング、KJ法															
	D:知識の活用・創造	【全角 125 (半角 250) 字以内 (改行は全角 1 文字)】															
授業時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	配布資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(5h)。ブレインストーミングの準備をする(3h)。 【全角 140 (半角 280) 字以内 (改行は全角 1 文字)】															
	事後学修	授業で学習を活かし、課題の完成度を高める(マインドマップの課題(5h)、親和図法A型図解法(20h)、親和図法B型文章化(4h))。小テストや配布資料を用いて復習する(8h)。 【全角 140 (半角 280) 字以内 (改行は全角 1 文字)】															
	総時間合計	45 【半角数字の整数(小数点以下繰り上げ) 3桁以内】															
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントや小冊子を使用する。 【全角 216 (半角 432) 字以内 (改行は全角 1 文字)】																
参考書	川喜多二郎『続・発想法』中公新書、1970年、ISBN9784121002105 トニーザン・ハリーザン(著)、近田美季子(翻訳)『新版ザ・マインドマップ-脳の無限の可能性を引き出す技術』ダイヤモンド社、2013年、ISBN9784478017166 【全角 216 (半角 432) 字以内 (改行は全角 1 文字)】																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	マインドマップ [課題1]	【1つの「評価方法」につき全角 42 (半角 84) 字以内】					30%	○									
	小テスト						5%		○								
	ブレインストーミング結果 [課題2・3]						5%			○							
	親和図法A型図解法 [課題4・6]						40%				○						
	親和図法B型文章化 [課題5・7]						15%					○					
	最終課題 [課題8]						5%	○	○	○	○						
すべての小テストおよび課題の合格を単位取得の条件とする。 【全角 150 (半角 300) 字以内 (改行は全角 1 文字)】																	

注意事項	「情報処理入門」を履修済みか履修中であること。 【全角 144 (半角 288) 字以内 (改行は全角 1 文字)】	
備考	コンピュータ教室を使用するため、履修希望者が教室の収容人数を超える場合には抽選を実施する。 【全角 144 (半角 288) 字以内 (改行は全角 1 文字)】	
リンク	授業についての詳細な内容については、以下のページを参照すること。 【全角 72 (半角 144) 字以内】	
	URL	<a href="https://sample.oita-u.ac.jp/course/20xx/cts/">https://sample.oita-u.ac.jp/course/20xx/cts/</a> 【半角 270 字以内】
担当教員の実務経験の有無		
教員の実務経験	【全角 72 (半角 144) 字以内 (改行は全角 1 文字)】	
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無		
教員以外の指導に関わる 実務経験者	【全角 72 (半角 144) 字以内 (改行は全角 1 文字)】	
実務経験をいかした 教育内容	【全角 216 (半角 432) 字以内 (改行は全角 1 文字)】	

## I. シラバス様式の変更について

2024 年度の教務情報システムの更新に伴って、2025 年度以降のシラバス様式の一部が変更されています。本手引きは、変更後のシラバス様式でのシラバスの作成について説明するものです。

## II. シラバスのチェック体制

本学では、すべての科目において適切なシラバスが作成されていることを確かめるために、表 II-1 のようなチェック体制を設けています。

表 II-1 シラバスのチェック体制（令和 6 年度（2024 年度）シラバス作成に係る実績）

学部等	チェック体制	作成期間	チェック期間	修正期間
教育学部	①教務委員会でチェックシートを作成する ②シラバス作成者はチェックシートでセルフチェックを行う ③小講座単位で相互チェックを行う ④学務係で集約する（チェックは行わない）	2月1日～ 2月22日	2月1日～ 2月22日	2月1日～ 2月22日
教育学研究科	①授業担当者によるチェック担当者（当該授業科目担当者以外）へのシラバス送付 ②チェック担当者によるシラバスチェック	2月2日～ 2月15日	2月2日～ 2月22日	2月16日～ 2月22日
経済学部	教務委員会にて、教員が作成したシラバスを教務委員に渡し、アクティブ・ラーニングの記載内容などを中心に分担してチェックする。修正については、教務委員から直接教員に指示もしくは学務係を通して伝えて反映させる。	1月16日～ 2月9日	3月4日～ 3月14日	3月14日～ 3月22日
経済学研究科	大学院委員会にて、教員が作成したシラバスを大学院委員に渡し、アクティブ・ラーニングの記載内容などを中心に分担してチェックする。修正については委員から直接教員に指示もしくは学務係を通して伝えて、反映させる。	1月16日～ 2月9日	3月4日～ 3月14日	3月14日～ 3月22日
医学部	（医学科）教務委員会でピア・レビューを行う。 （看護学科・先進医療科学科）学科教員でピア・レビューを行う。	1月24日～ 2月22日	3月7日～ 3月15日	3月19日～
医学系研究科	修士は看護学専攻部会の教育担当、博士は小委員会のメンバーでチェックし、チェックでの指摘事項を各科目担当教員に知らせる。	1月7日～ 1月31日	3月1日～ 3月11日	修正分は次回のシラバスに反映させる

学部等	チェック体制	作成期間	チェック期間	修正期間
理工学部	①教務委員会でチェックシートを作成する ②シラバス作成者はチェックシートでセルフチェックを行う ③プログラム単位で相互チェックを行う ④学務係で集約する(チェックは行わない) ※理工学部から提出した教養科目も含む。	1月10日～ 1月31日	3月1日	3月4日～ 3月18日
工学研究科 (理工学研究科)	(博士前期課程) 理工学部と同様	1月10日～ 1月31日	3月1日	3月4日～ 3月18日
	(博士後期課程) ①研究指導委員会でチェックシートを作成する ②シラバス作成者はチェックシートでセルフチェックを行う ③研究指導委員会でチェックを行う ④学務係で集約する(チェックは行わない)	2月1日～ 2月22日	2月23日～ 3月1日	2月23日～ 3月1日
福祉健康科学部	①シラバス作成者はチェックシートでセルフチェックを行う ②教務・実習委員はチェックシートでチェックを行う	1月11日～ 1月31日	3月5日～ 3月15日	3月16日～ 3月19日
福祉健康科学研究科	①シラバス作成者はチェックシートでセルフチェックを行う ②学務委員はチェックシートでチェックを行う	1月12日～ 1月31日	3月5日～ 3月15日	3月16日～ 3月19日
教養教育	①科目担当教員が「シラバスチェックリスト」(Google フォーム)により、セルフチェックをする。 ②科目担当教員から提出のあった「シラバスチェックリスト」を基盤教育センター長が確認する。 ※学部クローズ科目 各学部でチェックを行う。	12月28日～ 1月23日	(科目担当教員) 12月28日～ 1月23日 (基盤教育センター長) 12月28日～ 2月14日	2月15日～ 2月21日

令和6年度(2024年度)第7回教養教育・教務委員会、第6回大学院委員会終了後確認

### III. シラバスの項目について

本手引きの1ページに示す様式の主な項目について、上から順に説明しています。

#### 1. ナンバリング [2019年度から追加]

ナンバリングとは、教育課程の体系を表したり、学修の段階や学修すべき順序等を示したりする授業科目ごとの番号です。科目設置の際に決められたナンバリングは自動的に入力されるため、科目担当教員が入力する必要はありません。

表1 記載例) ナンバリング

ナンバリング
AA42G113

#### 「ナンバリング」記載の背景

文部科学省が毎年実施している「大学における教育内容等の改革状況について」の調査項目として、シラバスへの「当該授業科目の教育課程内の位置づけや水準を表す数字や記号（ナンバリングを含む）」の記載が挙げられています。これは、国際的な動向を踏まえた大学教育の展開の一環として求められている項目です。

#### 2. 授業科目名（科目の英文名） [変更なし]

授業科目名と科目の英文名を記入してください。

表2 記入例) 授業科目名（科目の英文名）

授業科目名（科目の英文名）
創造的思考法 (Creative Thinking Skills)

#### 3. 主に使用する言語、その他に使用する言語 [2025年度から追加]

主に使用する言語、その他に使用する言語を、それぞれ「日本語」、「英語」、「英語以外の外国語」から選択してください。

#### 「主に使用する言語」、「その他に使用する言語」記載の背景

外国語で行われる科目（語学を除く）が多いと、留学生が受講しやすくなり、国際的な学生交流を促進します。また、日本人学生にとっても、外国語で学ぶことは異文化理解や国際的な視点を養う機会の拡大につながります。これにより、グローバル社会で活躍できる人材を育成する環境が整います。そのため、外国語で行われている科目の比率は、大学の国際性を図る重要な指標とされています。



## 4. 担当形態 [2025 年度から追加]

担当形態について、「単独」、「複数（共同）」、「オムニバス」から1つ以上を選択してください。「単独」を選択した場合は、「複数（共同）」や「オムニバス」は選択しないでください。また、該当する場合には「クラス分け」を選択してください。回ごとに担当形態が異なる場合や、クラス分けをしてオムニバスで実施するなど、複数の授業形態を組み合わせている場合には、複数を選択してください。

表 4-1 担当形態

1つ以上 を選択	単独	1人の教員が全回を担当する
	複数（共同）	1回の授業を2人以上の教員と一緒に担当する
	オムニバス	各回を異なる教員が担当する
	クラス分け	学生を複数のクラスに分けている

表 4-2 担当形態の組み合わせ例

担当形態				例 (クラスや教員の数、授業回はあくまでも例)
単独	複数（共同）	オムニバス	クラス分け	
●			●	同一シラバス科目で、対象者をクラス分けし、クラス1をA教員、クラス2をB教員が担当する
●			●	同一シラバス科目で、対象者を3つにクラス分けし、クラス1はA教員、クラス2とクラス3はB教員が担当する
●			●	同一シラバス科目で、対象者を2つにクラス分けし、A教員がクラス1とクラス2を異なる時間に担当する
				同一名称の科目であるが、3つにクラス分けし、担当教員ごとにシラバスが別である。
●				クラス1はA教員が担当する。
●			●	クラス2とクラス3はB教員が担当するが、同一シラバスである。
		●	●	同一シラバス科目で、対象者をクラス分けし、クラス1の前半とクラス2の後半をA教員、クラス2の前半とクラス1の後半をB教員が担当する
		●	●	同一シラバス科目で、対象者をクラス分けし、クラス1とクラス2の担当教員が途中で入れ替わる
		●	●	同一シラバス科目で、1-2回は単一クラスでA教員、3-4回は単一クラスでB教員が担当し、5回以降は対象者をクラス分けし、クラス1をA教員、クラス2をB教員が担当する
	●		●	同一シラバス科目で、対象者をクラス分けし、クラス1をA教員とB教員が、クラス2をC教員とD教員が共同で担当する
	●	●	●	同一シラバス科目で、1回は単一クラスでA教員、2回は単一クラスでB教員、3回は単一クラスでC教員、4回は単一クラスでD教員が担当し、5回以降は対象者をクラス分けし、クラス1をA教員とB教員、クラス2をC教員とD教員が共同で担当する

## 5. 授業の概要 [2019 年度から名称変更]

授業の概要を記入してください【全角 383 (半角 766) 字以内 (改行は全角 1 文字)】。授業の主旨や意義を書くことができます。

表 5 記入例) 授業の概要

授業 の 概 要	情報を整理・視覚化し、新たな発想を生み出すための手法について学ぶ。これらは、自由記述式の質問紙法、口頭による自由回答法の回答の分析をはじめ、企画、会議、プレゼン、人材育成、情報収集と分析などの場面で対応できる。大分の地域活性化に関するテーマでアイデアを出し、グループによるブレインストーミングを経て、創造的思考ができるようになることをめざす。
-------------------	---

### 「授業の概要」への項目名変更の背景

2018 年度までの項目名は、「授業のねらい」でした。広辞苑第七版は「ねらい」を、「達成しようとするめあて。意図。」と定義しています。達成しようとするめあてについては「具体的な到達目標」の項目があること、一方で授業の概要に関する項目がなかったことから、「授業のねらい」を「授業の概要」に変更しました。

## 6. 具体的な到達目標・DP 等の対応 [2025 年度から様式の変更・追加]

具体的な到達目標を箇条書き（最大 10 項目）で記入してください【1 つの目標につき全角 58（半角 116）字以内】。加えて、ディプロマ・ポリシー（DP と略す）等の対応を記してください。到達目標と DP 等との対応については、原則として到達目標ごとに最も当てはまる DP 等 1 つを選択してください（複数の DP 等に該当する場合は、目標を分割することも検討できます）。成績評価の対象としない到達目標は記入しないでください。成績評価の対象としない到達目標がある場合には、成績評価に新たな方法を加えることを検討してください（17 ページ参照）。

到達目標の主語は学生にしてください。目標に到達する主体は学生であるからです。

学生が主語の例） 身の回りにある物質をその性質によって分類できる。

教員が主語の例） 身の回りにある物質の性質を理解させる。

到達目標の述語は観察可能な動詞にしてください。目標に到達したことを担当教員や学生自身が確認することを容易にするためです。

観察可能な動詞の例） 身の回りにある物質をその性質によって分類できる。

観察困難な動詞の例） 身の回りにある物質の性質を理解できる。

表 6-1 観察可能な動詞と観察困難な動詞の表現例

観察可能な動詞の例 (学生の行為)	観察困難な動詞の例 (学生の脳内の変化)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 述べる</li> <li>● 書く</li> <li>● 列挙する</li> <li>● 挙げる</li> <li>● 説明する</li> <li>● 表現する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● わかる</li> <li>● 理解する</li> <li>● 知る</li> <li>● 覚える</li> <li>● 記憶する</li> <li>● 覚える</li> <li>● 考える</li> <li>● 感じる</li> <li>● 学ぶ</li> <li>● 養う</li> <li>● 培う</li> <li>● 身につける</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 分類する</li> <li>● 判別する</li> <li>● 区分する</li> <li>● 比較する</li> <li>● 関係づける</li> <li>● 分析する</li> <li>● 特定する</li> <li>● 予測する</li> <li>● 応用する</li> <li>● 適用する</li> <li>● 批判する</li> <li>● 提案する</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 採用する</li> <li>● 評価する</li> <li>● 一般化する</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実施する</li> <li>● 実演する</li> <li>● 模倣する</li> <li>● 操作する</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● (ある行動を) 選択しようとする</li> <li>● 参加しようとする</li> <li>● 自発的に○する</li> <li>● 協力する</li> </ul>

1 つの到達目標に多くの異なる内容が含まれている場合は、目標を分割することを検討してください。

多くの異なる内容が含まれている例) バレーボールとバスケットボールについて、ルールを踏まえたうえで、チームのメンバーで協同して効果的な作戦を立て、フェアプレーの精神をもって、実践形式のゲームができる。

到達目標と対応づける DP 等の別表については、表 6-1 に示す項目のうちから到達目標ごとにそれぞれ最もあてはまる 1 項目を選択してください。なお、複数を選択することも可能です。1 科目の複数の到達目標のうち、いくつかについて対応しない DP 等が生じて問題ありません。

表 6-1 学部共通および大学院共通の DP

DP	学部共通	大学院共通
DP1	<p>専門的知識・技能の活用 (Application of Expert Knowledge and Skills)</p> <p>専門分野に関する基礎的な知識や技能を横断的・総合的に活用することができる。</p>	<p>高度な知識と知的能力</p> <p>高度な知識、知的能力及び技術を活用し、自立した研究活動ができる。</p> <p>キーワード：【知識基盤】専門分野の知識、研究方法、情報探索、情報管理、【認知的能力】分析能力、批判的思考、問題解決能力、【創造性】探究心、イノベーション</p>
DP2	<p>コミュニケーション能力 (Written and Oral Communication Skills)</p> <p>日本語や外国語を用いて、自らの意見を文章および口頭で論理的に表現できるとともに、他者の意見を傾聴することによって、多様な人々と円滑に相互理解を図ることができる。</p>	<p>確かな研究マネジメント能力</p> <p>専門家として、研究倫理を遵守しつつ、研究を計画し、適切に管理・遂行できる。</p> <p>キーワード：【研究マネジメント】研究計画と遂行、【専門家としての行動】倫理、知的財産権と著作権、他者への配慮と守秘義務、引用と共同執筆のルール</p>
DP3	<p>創造的問題解決力 (Creative Problem Solving Skills)</p> <p>個人または他者との協働で、課題を発見し、批判的思考法を用いた創造的解決策の提案、解決への取り組みを行うことができる。</p>	<p>社会を牽引する能力</p> <p>協働プロジェクトの運営管理や研究成果の発信により、地域と国際社会の発展に貢献できる。</p> <p>キーワード：【他との協働】チームワーク、リーダーシップ、ダイバーシティ、【コミュニケーションと普及】、【エンゲージメントとインパクト】</p>
DP4	<p>社会的責務と倫理 (Social Responsibility and Ethical Reasoning)</p> <p>社会のルールや規範に則り、自らの良心と良識に従って行動することができる。</p>	N/A
DP5	<p>地域発展・人類福祉への貢献 (Contribution to Regional Development and Human Welfare)</p> <p>インクルーシブな視点を持ち、多様な文化・価値観を尊重しつつ、社会における自己の責任と使命を認識して、地域の発展と人類福祉の向上のために行動することができる。</p>	N/A
DP6	<p>生涯学習力 (Lifelong Learning Skills)</p> <p>学ぶべき内容を自ら把握して目標を設定し、高い学習意欲と探究心を持って主体的に学修することができる。</p>	N/A
DP7	<p>N/A</p> <p>※医学部看護学科専門教育科目のみ 豊かな看護観</p>	N/A

「各 DP への関連度 (計 10)」(「目標 10」の下) の行には、科目全体を 10 とし、対応する各 DP に 1 から 10 までの整数で重みを割り当ててください。対応付けがない DP には数値を入力できません (表 6-2 に示す例のような場合、いずれの目標にも関連付けが選択されていない DP4 や DP6 には数値を割り当てないでください)。

教務情報システムのディプロマ・サプリメントのディプロマ・ポリシー達成度を表すレーダーチャートには、「各 DP への関連度」に入力された数値と各学生の科目のグレードポイント (GP: 90 点以上が「4」、80 点以上 90 点未満が「3」、70 点以上 80 点未満が「2」、60 点以上 70 点未満が「1」、60 点未満が「0」) と単位数から算出された値の累積が反映されます (図 6-1)。なお、合計が 10 でない場合は、計算時に合計が 10 になるよう自動調整されます。また、表 6-1 で「N/A」となっている項目の数値は計算から除外されます。

表 6-2 記入例) 具体的な到達目標・DP 等の対応 (学部共通の場合)

具体的な到達目標	DP 等の対応(別表参照)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> <span>3. 創造的問題解決力</span> <span>4. 社会的責務と倫理</span> <span>5. 地域発展・人類福祉への貢献</span> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> <span>2. コミュニケーション能力</span> <span>6. 生涯学習力</span> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> <span>1. 専門的知識・技能の活用</span> </div>						
		1	2	3	4	5	6	7
目標 1	アイデアや情報を整理・視覚化したマインドマップを作成できる。			○				
目標 2	ブレインストーミングの意義や効果的な実施方法を説明できる。	○						
目標 3	ブレインストーミングによって、アイデアを創出できる。		○					
目標 4	親和図法図解化を用いて断片情報を階層的にまとめ、関係性を可視化できる。			○				
目標 5	大分の地域活性化を題材した親和図法図解化をもとに文章化できる。					○		
目標 6								
...								
目標 10								
各 DP への関連度 (計 10)		1	2	6		1		

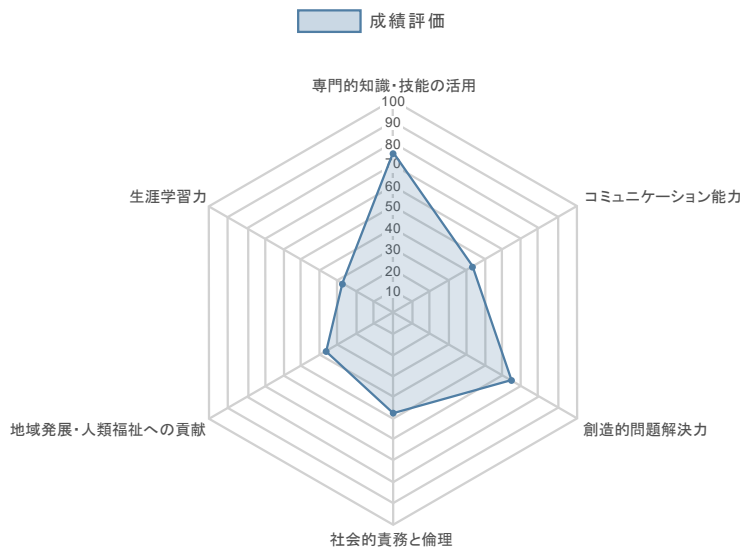


図 6-1 教務情報システムのディプロマ・ポリシー達成度レーダーチャート例 (学部共通)

「具体的な到達目標・DP 等の対応」の記載の背景

DP は以下に示す三つのポリシーの 1 つです。DP は、三つのポリシーの核となるものです。

表 6-3 三つのポリシーを構成する各ポリシーについての基本的な考え方

ディプロマ・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、 <u>学生の学修成果の目標ともなるもの。</u>
カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。
アドミッション・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念、 <u>ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、</u> どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の 3 要素」についてどのような成果を求めるか）を示すもの。

(中央教育審議会大学分科会大学教育部会 2016、強調引用者)

文部科学省が毎年実施している「大学における教育内容等の改革状況について」の調査項目として、シラバスへの「人材養成の目的もしくは学位授与の方針と当該授業科目の関連」の記載が挙げられています。また、本学が目標に照らして学士課程教育の諸活動について点検・評価し、内部質保証のために、科目の到達目標と DP との対応が追加されました。大学の教育目標や DP 等（学位授与の方針）と科目の到達目標との対応が示されることによって、卒業に必要な単位を修得した学生が、大学の教育目標や DP 等（学位授与の方針）に到達するように教育されていることを明らかにできます。

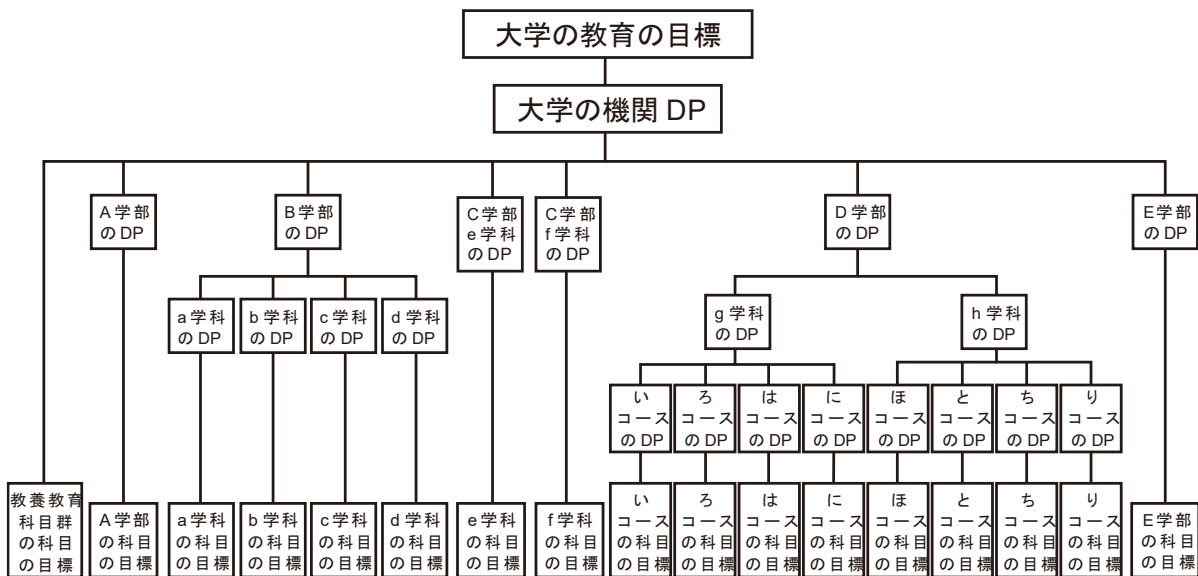


図 6-2 大学の教育目標からそれぞれの科目の目標までの体系の例

表 6-4 機関 DP と整合性のあるカリキュラムの DP および科目の目標の例

大学（機関）レベル DP	多様な読み手に対して、文章による効果的なコミュニケーションができる。	
学部（学科・コース）レベル DP	経営学部	専門家や一般の読み手に対して、一般的なビジネス書式を使った効果的なコミュニケーションができる。
科目レベルの目標	財政学	〇〇書式の財政報告書を書くことができる。

(Walvoord 2010、引用者訳)

科目の到達目標と DP 等との対応づけを行うためには、1 つの到達目標に多くの異なる内容が含まれている場合には困難です。また、到達目標と評価の方法を関連付けることも念頭に置く必要があります。多くの異なる内容が含まれる到達目標では、到達目標の一部の達成度は高かったものの、他の一部の達成度が低かった場合、評価は不明瞭なものとなります。これらのことから、到達目標は箇条書きでの様式に変更されました。

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」（平成 24 年 8 月 28 日中央教育審議会答申）では、「学生に求められる能力をどのようなプログラムで育成するか（学位授与の方針）を明示し、その方針に従ったプログラム全体の中で個々の授業科目は能力育成のどの部分を担うかを担当教員が認識」することが必要であるとしています。

科目の到達目標と DP 等との対応は、学生が DP の到達度を省察する際に必要な情報です。学生が学修ポートフォリオ等を活用して一定の期間ごとに学修を省察するプロセスで、履修科目の到達目標と DP 等との対応情報は、自身の DP 到達度の評価を支援するものとなります。また、学生がその後の学修をどのように進めていくかの計画を立てる際に、これから受講しようとする科目の到達目標と DP 等との対応情報が参考になります。

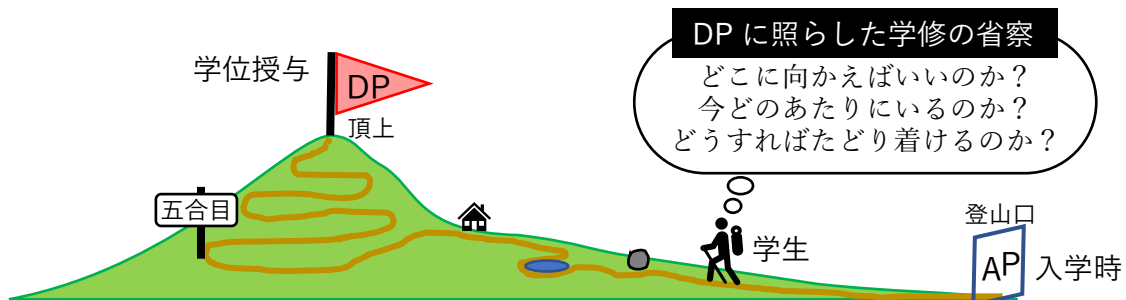


図 6-3 学士課程教育で学生が DP を意識して学ぶイメージ

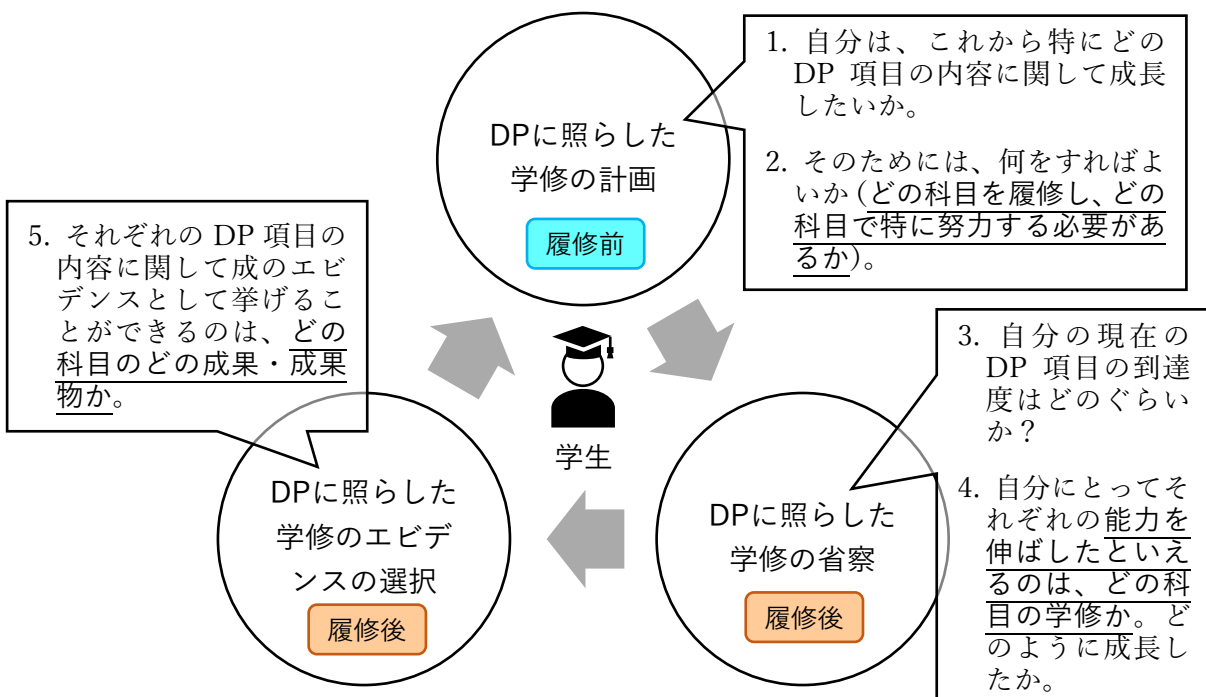


図 6-4 DP に照らした学生の学修サイクル

科目の目標に基づく  
科目単位の学修の省察

DP に基づく学士課程を通じた学修の省察



木



森

図 6-5 科目単位の学修の省察と課程を通じた学修の省察の違いのイメージ



## 7. 授業の内容 [2019 年度から様式の変更]

授業の内容を授業回ごとに記入してください【1 回につき全角 74 (半角 148) 字以内】。試験の回は含めないでください。授業回は、15 回と 30 回のいずれかを選択できます (8 回の授業は、15 回を選択してください)。

表 5-1 の記入例のように授業のテーマの後に「:(コロン)」を入力して、簡単な説明を加えることもできます。

表 7-1 記入例) 授業の内容

授業の内容	
1	【ブロック 1】オリエンテーション、マインドマップ練習: 「しあわせ」マインドマップを作成する。
2	マインドマッピングとは、Xmind の使い方: Xmind で「しあわせ」マインドマップを作成する。
3	自己分析マインドマップの作成: 自分自身についてのマインドマップを作成する。
4	読書マインドマップの作成: 1 冊の本からマインドマップを作成する。マインドマップのまとめ [課題 1]
5	【ブロック 2】アイスブレイク、マッシュマロチャレンジ: グループでマッシュマロチャレンジをする。
6	ブレインストーミングとは: 順番ブレインストーミングの練習をする。[課題 2]
7	大分の地域活性化に関するブレインストーミング: グループで順番ブレインストーミングをする。[課題 3]
8	【ブロック 3】親和図法一紙切れ作り・紙切れ集め・表札づくり:ブレインストーミングの結果を紙切れにし集める。
9	親和図法一グループのグループ化・空間配置: A 型図解化の空間配置をする。
10	親和図法一関係線の描画: A 型図解化を完成させる。[課題 4]
11	親和図法一B 型文章化: B 型文章化で発想する。[課題 5]
12	【ブロック 4】親和図法 (2) -A 型図解化: 大分の活性化に関するブレインストーミングの結果を図解化する。
13	親和図法 (2) -A 型図解化 (2): A 型図解化を完成させる。[課題 6]
14	親和図法 (2) -B 型文章化: B 型文章化で発想する。[課題 7]
15	総まとめと最終課題 [課題 8]

表 7-2 2 つのクラス (A クラスと B クラス) で異なる授業の内容の記入例

授業の内容	
1	A クラス 1: オリエンテーション、マインドマップ練習
2	A クラス 2: マインドマッピングとは、Xmind の使い方
...	...
15	A クラス 15: 総まとめ
16	B クラス 1: オリエンテーション、マインドマップ練習
17	B クラス 2: 親和図法、IdeaFragment2 の使い方、紙切れ作り
...	...
30	B クラス 15: 総まとめ

## 8. アクティブ・ラーニング [2019年度から項目名・様式変更]

アクティブ・ラーニングとして取り組んでいる方策等を記入してください【全角 125(半角 250)字以内 (改行は全角 1 文字)】。表 6-2 の方策の例や具体例も参考にできます (文章での説明も可能です)。加えて、アクティブ・ラーニングの 4 タイプ (詳細は図 6-1、表 6-2 を参照) のうち、取り組んでいるタイプを選択してください (複数選択可)。タイプ選択の際には、「タイプの説明」 (次ページ) を参照してください。

アクティブ・ラーニング以外の工夫については、「その他の工夫」欄に記載してください。

表 8-1 記入例) アクティブ・ラーニング

ラ ア ク テ ィ ブ ・ ラ ー ニ ン グ	A:知識の定着・確認	○	演習、小テスト、ループリックによる自己評価、グループ・ペアでの共同作業、省察のためのコメントレポート、マインドマップ、ブレインストーミング、KJ 法
	B:意見の表現・交換	○	
	C:応用志向		
	D:知識の活用・創造		

### 「アクティブ・ラーニング」の記載の背景

2018 年度までは、授業の内容欄に【学生がより深く学修するための工夫】欄を手入力で作成をお願いしていました。この欄を「アクティブ・ラーニング」と「その他の工夫」に分けました。

本学の第 3 期中期計画では、「学生の能動的・主体的学習を促し、学習意欲向上や学生のキャリアパスを見据えた教育課程を担保するため、能動的学修 (アクティブ・ラーニング) を取り入れた授業比率を 80% 以上に高める」ことを掲げています。また、文部科学省が毎年実施している「大学における教育内容等の改革状況について」の調査項目として、「カリキュラム編成に当たり、能動的学修 (アクティブ・ラーニング) を効果的にカリキュラムに組み込むための検討を行」うことが挙げられています。

アクティブ・ラーニングを取り入れた授業には、一方向的な知識伝達型講義の形式を保持しつつも学生が学修に参加する形式を加える授業から、学生の能動的な学修を中心とした授業までが含まれます。教学 IR の観点からアクティブ・ラーニングの取組状況を把握するために、教育マネジメント機構教学マネジメント室 (旧高等教育開発センター) では、どのような目的で導入しているかによってアクティブ・ラーニングを 4 タイプに分類しています。今後、アクティブ・ラーニングの 4 タイプの集計結果を参考に、カリキュラムの改善の検討ができるようにすることも視野に入れていきます。

学生が履修する授業を選択する際、授業にどのようなアクティブ・ラーニングが組み込まれているかの情報は重要です。学生が学習者特性に応じて、自身の適性にあったアクティブ・ラーニングが導入されている科目を選択したり、低い特性を高めるようなアクティブ・ラーニングが導入されている科目を選択したりすることができるようにするためです。積極的にコミュニケーション能力や課題解決能力を高めたい学生は、具体的なアクティブ・ラーニングの活動が記載されている授業を選択できます。一方で、知識伝達型講義を好む学生や、他人との社会的関係の形成に困難さを感じる学生にとっても、受講を検討する際の参考とすることが可能になります。

## アクティブ・ラーニングに関する参考資料

教育マネジメント機構教学マネジメント室（旧高等教育開発センター）では、アクティブ・ラーニングの視点にもとづいた授業を推進するとともに、教育改善を目的とした教学 IR の観点からアクティブ・ラーニングの取組状況の把握しやすくするために、国内外のアクティブ・ラーニングの分類を調査し、国内の高等教育機関及び本学の状況を踏まえたうえで、アクティブ・ラーニングの取組を 4 タイプに分類しています（図 6-1）。2016 年 8 月に作成した 4 タイプの例（表 6-2）は、2017 年 3 月の全学教員対象の調査結果をもとに改訂し、その後も逐次改訂しています。

### ■ アクティブ・ラーニングの視点にもとづいた授業

- 読解、作文、発表、討論、問題解決、創造などの学生の活動への関与があり、それらで生じる認知プロセスの外化を伴っている授業
- 学生が自ら目標を定め、計画して学修に取り組み、省察して次の学びにつなげていく過程を実現する「主体的な学び」
- 他者との協働や外界との相互作用を通じて考えを発展させる「対話的な学び」
- 学んだ知識を活かして問題発見・解決や創造を行う「深い学び」



図 8-1 活動の範囲と構造の自由度によるアクティブ・ラーニングの 4 タイプ

表 8-2 アクティブ・ラーニングの 4 タイプと例 (2018 年 8 月 31 日改訂版 [Ver.4.2])

タイプ	タイプの説明	方策の例	具体例	備考
(A) 知識の定着・確認	知識の定着およびそれらを確認する、主に個人の学修	レスポンスアナライザー	クリッカー	
		小テスト, 演習, 実技	中間テスト, 口頭試問, 穴埋め資料, 質疑応答, 作問	
		知識の定着・確認を図るレポート・ライティング	ミニッツペーパー	表現志向のものは(B)
		時間外学修	予習(反転学修を含む), 復習, 宿題	他者との協働や相互作用のあるものは(B)
		体験, 実験, 観察	手順通りの実験・実習, 体験活動, 見学, 傍聴, 実体験を伴わない学生の過去の体験との紐付け	
(B) 意見の表現・交換	知識や意見を表現したり交換したりする他者との協働や相互作用のある学修	発問 発表	指名発問, リレー発問 プレゼンテーション, パネルディスカッション, カンファレンス	
		話し合い	ディスカッション(ガイド付き・フリー), ブレインストーミング, ラウンドロビン, バズグループ, シンクペアシェア, ワールドカフェ, デイベート, マイクロデイベート, アイディアソン	
		教え合い・学び合い	ジグソー, 知識構成型ジグソー法, LTD(Learning Through Discussion), 相互教授(ピアインストラクション), ラーニングセル, リーディングサークル, カタリ場	問題解決が含まれる場合は(C)も参照
		図解	コンセプトマップ, KJ法A型図解化, マインドマップ	
		文章作成	学びの省察(ポートフォリオを含む), 表現志向のレポート・ライティング, 読書感想文, 看図作文, 共同的執筆	知識の定着・確認を図るものは(A)
		相互評価(ピアレビュー)	ピアレスポンス	
(C) 応用志向	知識やスキルを現実で起る状況に用いたり問題解決する、主に教室等での学修	問題基盤学修[PBL](Problem-Based)	チュートリアル, 四面会議システム	
		シミュレーション, ゲーム	危険予知訓練(KYT), バーンガ	シナリオベース
		ロールプレイ, 演劇	模擬授業	
		仮説の検証や探索を伴う実験		
		ケースメソッド	シナリオ・事例研究, 事例設定型教授(Case-Based)	学修者主体のもの
(D) 知識の活用・創造	知識やスキルを現場で活用する学修や、創造的な学修	プロジェクト学修[PBL](Project-Based)	ハッカソン(アイディアソンとセットで)	
		実習	教育実習, 臨地実習, 海外実習, 現地実習	
		インターンシップ		省察を伴う
		サービスラーニング	評価を伴うボランティア活動	省察を伴う
		フィールドワーク	聞き取り調査(インタビュー), アンケート調査	受動的な見学や体験活動は(A)
		観測		
		創成学修 芸術創作	ものづくり実習, 動画作成	
		設計, デザイン, 意匠 研究, 論文作成	卒業論文, 修士論文	

注 1) 1 教育活動に複数のタイプや方策が組み合わされて用いられることがある。また、1 方策を複数のタイプに分類できる場合がある。

注 2) 同じ教育活動であっても、実施の目的や意図、文脈によって異なるタイプに分類されることがある。

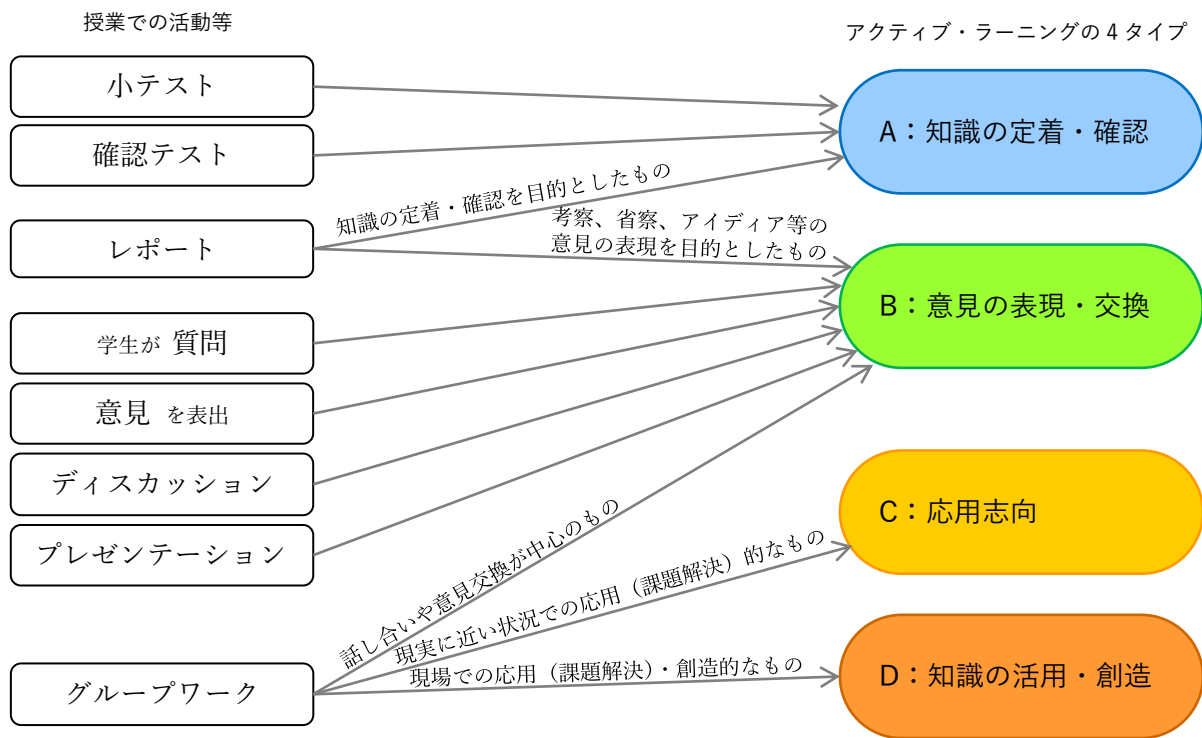


図 8-2 授業での活動等をアクティブ・ラーニングの4タイプに分類した例

## 9. その他の工夫 [2019年度から追加]

アクティブ・ラーニング以外の授業の工夫について記入してください【全角 110（半角 220）字以内（改行は全角 1 文字）】。説明等、自由に記述することができます。

表 9 記入例) その他の工夫

その他の工夫	アイスブレイク、動画の活用、LMS (Moodle) の活用、タスクは各自のペースで実施
--------	--

## 10. 授業時間外学修の内容と時間の目安 [2025年度から様式の変更・追加]

「授業時間外学修の内容と時間の目安」の項目について、「準備学修」（授業全体および特定の回の準備）と「事後学修」（特定の回および授業全体の事後の学修）のそれぞれの内容の記入してください【それぞれが全角 140（半角 280）字以内〈改行は全角 1 文字〉】。教科書を読んでおく、講義ノートで復習するといった一般的な内容に加えて、学生に授業時間外学修を促すための具体的な内容を、科目担当教員が想定するおおよその時間の目安を表 5 の記入例にならって、「(○h)」のように記入してください。 目安の時間の合計が、「一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成する」ようにお願いします（表 8-1 の記入例は「講義及び演習（2 単位・90 分(1 コマ)×15 回）」の科目であるので、授業時間外学修の時間は 45 時間（5h+3h+5h+20h+4h+8h））。

「想定時間合計」に、準備学修と事後学修で想定している時間の合計を整数のみ（単位は「時間」）で記入してください【半角数字の整数（小数点以下繰り上げ）3 桁以内】。

表 10-1 記入例) 授業時間外学修時間の内容と時間の目安

授業時間 外学修の 内容と時 間の目安	準備 学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(5h)。ブレインストーミングの準備をする(3h)。
	事後 学修	授業で学習を活かし、課題の完成度を高める（マインドマップの課題(5h)、親和図法 A 型図解化(20h)、親和図法 B 型文章化(4h)）。小テストや配布資料を用いて復習する（8h）。
	想定時間 合計	45

### 「授業時間外学修時間の内容と時間の目安」記載の背景

文部科学省が毎年実施している「大学における教育内容等の改革状況について」の調査項目として、シラバスへの「準備学修に関する具体的な指示」や「準備学修に必要な学習時間の目安」の記載が挙げられています。

本学の学則第 22 条では大学設置基準に基づき、「各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成」することが、講義及び演習については、「15 時間から 30 時間までの範囲で、各学部の定める時間の授業をもって 1 単位とする」ことが定められています。本学の多くの科目は、「15 時間」（45 分×15 時間）の授業で「1 単位」としていることから、講義及び演習（2 単位・90 分×15 回）の場合は、表 10-2 及び表 10-3 のように、45 時間を必要とする内容の授業時間外学修をもって構成されることが標準となります（1 コマ 90 分を 2 時間とし、45 分を 1 時間として計算しています）。講義及び演習（1 単位・90 分×15 回）の場合は、表 10-4 及び表 10-5 のようになります。実験、実習及び実技については、学則第 22 条（2）で、「30 時間から 45 時間までの範囲で、各学部の定める時間の授業をもって 1 単位とする」と定められています。学則で定められた授業時間の最小値と最大値の場合の例を整理すると、表 10-6 のようになります。

表 10-2 講義及び演習 (2 単位・90 分×15 回) の場合

準備学修	授業時間	事後学修
45 時間 = 2700 分 = 180 分×15 回 (学則での 60 時間)	22.5 時間 = 1350 分 = 90 分×15 回 (学則での 30 時間)	
67.5 時間 (学則での 90 時間) [2 単位]		

表 10-3 表 10-2 に準備学修と事後学修に同じ時間を割り当てた場合の

	準備学修	授業時間	事後学修
15 週で 1 週あたり	22.5 時間 90 分	22.5 時間 90 分	22.5 時間 90 分

表 10-4 講義及び演習 (1 単位・90 分×8 回) の場合

準備学修	授業時間	事後学修
22.5 時間 = 1350 分 = 180 分×7.5 回 (学則での 30 時間)	12 時間 = 720 分 = 90 分×8 回 (学則での 15 時間) ※厳密には 0.5 コマ (45 分) 多い	
34.5 時間 (学則での 45 時間) [2 単位]		

表 10-5 表 10-4 に準備学修と事後学修に同じ時間を割り当てた場合の例

	準備学修	授業時間	事後学修
8 週で 1 週あたり	11.25 時間 84.375 分	12 時間 90 分	11.25 時間 84.375 分

表 10-6 必要な授業時間外学修の時間の換算例

	A. 単位数	B. 授業コマ数 =D/F*	C. 学則の時間範囲	D. 授業時間数	E. 1 コマの時間	F. 1 コマの時間換算	G. 必要な授業時間外学修の時間 =45*A-D	F. 必要な授業時間外学修時間の換算値‡ =E/F*(45*A-D)/60*	
講義及び演習	1	8	最小	15	90 分	2 時間‡	30	23‡	
		15†	最大	30			15	12‡	
	2	15	最小	30			60	45‡	
		30	最大	60			30	23‡	
	1	15	最小	15	60 分	1 時間	30	30	
		30	最大	30			15	15	
		2	30	最小			30	60	60
			60	最大			60	30	30
実験、実習及び実技	1	15	最小	30	90 分	2 時間‡	15	12‡	
		23	最大	45	0	0‡			
		30	最小	30	60 分	1 時間	15	15	
		45	最大	45	0	0			

※ 小数点以下を切り上げ

† 多くの場合は 2 単位科目であるが本行は 1 単位科目であることに注意

‡ 1 時間を 45 分で算出

## 11. 教科書 [2024 年度から改訂]

教科書について著者名、標題、出版社、発行年、ISBN 等を記入してください【全角 216 (半角 432) 字以内 (改行は全角 1 文字)】。教科書を使用しない場合は、「教科書は指定しない」と記入してください。

※書籍を正確に特定できるように、ISBN (International Standard Book Number) を記入してください。2007 年以降に発行されている新刊本・重版本は 13 桁です (2006 年以前は 10 桁)。

表 11 記入例) 教科書

教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリント小冊子を使用する。
-----	-------------------------------------

## 12. 参考書 [2024 年度から改訂]

参考書について著者名、標題、出版社、発行年、ISBN 等を記入してください【全角 216 (半角 432) 字以内 (改行は全角 1 文字)】。参考書を使用しない場合は、「参考書は指定しない」と記入してください。参考書が多い場合は、主なものを選んでください。

※書籍を正確に特定できるように、ISBN (International Standard Book Number) を記入してください。2007 年以降に発行されている新刊本・重版本は 13 桁です (2006 年以前は 10 桁)。

表 12 記入例) 参考書

参考書	川喜多二郎『続・発想法』中公新書、1970 年、ISBN9784121002105 トニーブザン・バリーブザン (著)、近田美季子 (翻訳)『新版ザ・マインドマップー 脳の無限の可能性を引き出す技術』ダイヤモンド社、2013 年、ISBN9784478017166
-----	--



### 13. 成績評価の方法及び評価割合 [2019年度から様式変更]

評価方法と評価割合、到達目標との対応を記入してください【1つの「評価方法」が全角42(半角84)字以内、「備考」欄が全角150(半角300)字以内(改行は全角1文字)】。評価割合は、合計が100%になるように調整してください。いずれの到達目標とも関係のない評価方法は記入しないでください。いずれの到達目標とも関係のない評価方法がある場合には、新たに到達目標を設定することを検討してください(5ページ参照)。

成績評価全体に係わる内容については、別途記入することができます。

出席点を成績評価に加えることはしないでください。平成20年度第12回教務部門会において、「授業に出席するのは当然であり、成績評価に出席を加味するのはおかしい」ため、シラバスの「成績評価の方法及び評価割合」欄については、出席したことのみをもって成績評価の加算点にする旨の記述は使用しないことで統一することとなりました。もちろん、授業に出席し、そこの学修を小テストやコメントシートなどで確認し、その評価を加味することは可能です。

表13 記入例) 成績評価の方法及び評価割合

		マインドマップを用いて、情報の整理・視覚化し、アイデアを創出できる。										
		ブレインストーミングの意味や意義を説明できる。										
		ブレインストーミングによって、アイデアを創出できる。										
		親和図法を用いて情報を視覚化・整理し、アイデアを創出できる。										
		大分の地域活性化を題材に、アイデアを創出できる。										
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	マインドマップ[課題1、2、3]	30%	○									
	小テスト	5%		○								
	親和図法A型図解化[課題4]	40%			○							
	親和図法B型文章化[課題5]	15%			○	○	○					
	最終課題	10%	○	○		○						
すべての小テストと課題の合格を単位取得の条件とする。												

#### 「成績評価の方法及び評価割合」記載の背景

文部科学省が毎年実施している「大学における教育内容等の改革状況について」の調査項目として、「授業期間を通して課される課題(試験やレポート等)の内容」があります。

評価方法と具体的な到達目標とを対応づけることによって、成績評価が到達目標、DPに基づい

ていることを示すことができます。教員は、どのように評価するか＝何を身に付けさせたいかという教育の成果から逆向きに授業を設計することによって、効果的な授業へとつなげることができます。

学生は、到達したい目標がどの課題で問われるのかを把握して課題や試験等に臨むことができます。この情報は、学生が DP に基づいて学修を省察したり、学修のエビデンスを選択したりする際にも役立ちます。

## 14. 注意事項 [2024 年度から改訂]

科目の履修制限や、履修に際しての前提条件（前提科目）や重要なルール等の注意事項について記入してください【全角 144（半角 288）字以内（改行は全角 1 文字）】。

表 14 記入例) 注意事項

注意事項	「情報処理入門」を履修済みか履修中であること。
------	-------------------------

## 15. 備考

備考欄に参考となる情報や追加の情報を記入してください【全角 144（半角 288）字以内（改行は全角 1 文字）】。

学部専門教育科目のうち、地域創生教育科目に該当する科目については、備考欄の冒頭に「地域創生教育科目」と記入してください。

表 15 記入例) 備考

備考	コンピュータ教室を使用するため、履修希望者が教室の収容人数を超える場合には抽選を実施する。
----	---

## 16. リンク [2019 年度から追加]

付加的な詳細な情報を別途学部やコース等の Web ページで公開する場合には、その URL を表記してください。簡単な説明を加えることができます【「リンク」の説明が全角 72（半角 144）字以内、「URL」が半角 270 字以内】。

表 16 記入例) リンク

リンク	授業についての詳細な内容については、以下のページを参照すること。	
	URL	<a href="https://sample.oita-u.ac.jp/course/20xx/cts/">https://sample.oita-u.ac.jp/course/20xx/cts/</a>

## 17. 実務経験者 [2019 年度から追加]

高等教育段階の教育費負担軽減措置の対象となる機関要件の 1 つである、シラバスに実務経験のある教員による授業について記載することに対応するため、2018 年（平成 30 年）第 8 回全学教育機構運営会議で「教員の実務経験」「教員以外で指導に関わる実務経験者」「実務経験をいかした教育内容」の欄を設けることが承認されました。

実務経験のある教員が担当する科目の場合には、「教員の実務経験の有無」欄を選択してください。また、「教員の実務経験」欄に、実務経験の内容を記入してください（附属病院における医師及び看護師としての勤務経験は実務経験に含まれます）。

授業担当教員以外で実務経験者が指導に関わる科目の場合には、「教員以外で指導に関わる実務経験者の有無」欄を選択してください。また、「教員以外の指導に関わる実務経験者」欄に、実務経験の内容を記入してください（オムニバス形式で企業等から講師を招いて指導を行う授業や、学外でのインターンシップや実習等の授業が該当します）。

実務経験のある教員が担当する科目、教員以外で実務経験者が指導に関わる科目、またはその両方を満たす科目である場合には、「実務経験をいかした教育内容」欄に、実務経験のある教員や授業担当教員以外の指導に関わる実務経験者の実務経験をいかした教育内容について記載してください。

表 17-1 記入例 1) 実務経験者

教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	
教員の実務経験		臨床心理士
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>	
教員以外の指導に関わる実務経験者		臨床心理士、精神保健福祉士、保健師
実務経験をいかした教育内容		保健医療、福祉、教育等の分野の施設で、心理検査や心理面接（カウンセリング）に関する実習を行う。

表 17-2 記入例 2) 実務経験者（複数教員）

教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	
教員の実務経験		豊後梅子（キャリアカウンセラー）、大分二郎（企業経営者）
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>	
教員以外の指導に関わる実務経験者		人事担当者、営業担当者、開発者、システムエンジニア
実務経験をいかした教育内容		企業等でのインターンシップを通じて、就業意識を高めるとともに、自己適正の正しい認識や社会人として必要なマナーや責任感を習得する。

表 17-3 実務経験者のある教員の担当する授業科目の例

教員の实務経験	実務経験をいかした教育内容
日本証券協会	金融システム・金融機関の現状や課題について解説する。
日本銀行	実体と金融の側面から、日本経済の現状等について解説する。
ファイナンシャル・プランナー	ファイナンシャル・プランニング技能検定の実務科目について指導する。
報道	現代の科学報道の社会における役割や責任について講義し、科学的成果を社会に伝えるためのコミュニケーションスキルを学ぶ授業を担当する。
臨床心理士	心理検査や心理面接（カウンセリング）に関する実習を行う。
少年鑑別所	非行・犯罪行動に関する心理学や社会学等の理論、非行・犯罪からの離脱を支援する教育方法について解説する。
カウンセラー	心の健康に関して講義する。
牧師・クリスチャンワーカー	対人援助の方法の指導を行う。
小学校教諭	いじめ問題や不登校等の今日的な課題への対応を指導する。
附属病院の医師	皮膚の解剖、生理、病理、診断や、各種皮膚疾患の病態ならびに皮膚疾患を惹起する内的・外的因子について講義する。
附属病院の看護師	エビデンスに基づいた質の高い看護実践を行うために、看護実践の理論と基盤となる構成概念を講義する。
救急救命士	救急現場における規律・安全管理及び適切な心配蘇生法について指導する。
薬剤師業務	処方箋授受から服薬指導までの流れに関する基本的知識を講義する。
アパレルメーカー	服飾の市場分析、企画、販売について指導する。
メーカーの知財部門	特許精度の基本的な知識と手法、特許を用いた研究成果の保護・活用の考え方について講義する。
現役弁護士	専門分野において実際に担当した事件等について講義する。
元警察官	警察関係法令や警察活動の概要等を説明する。
文化財調査員	遺跡の発掘調査の実習を指導する。
博物館の工芸担当学芸員	日本の工芸や服飾の歴史について解説する。

文部科学省高等教育局高等教育段階の教育費負担軽減新制度プロジェクトチーム、高等教育段階の教育費負担軽減 高等教育の負担軽減方策に関する説明会（専門学校関係者向け） 参考資料 平成 30 年 11 月 22 日を参考に作成

表 17-4 教員は実務経験者でないものの実務経験者が指導に関わる授業科目の例

教員以外で指導に関わる実務経験者	実務経験をいかした教育内容
経営者・マスコミ関係者	現代社会の課題について講義し、社会的視野を広げ自発的に考える力を養うキャリア教育科目を担当する。
企業経営者	経営理論や経営手法、地域社会への貢献のあり方について講義する。
行政機関の政策立案者	具体的な政策課題や立案の視点を講義する。
海外の科学技術政策機関の職員	学生がインターンシップに参加し、グループ調査等を行うことを通じて、科学と社会の関係を理解し、科学技術コミュニケーションの重要性を体験する。
行政や商業・農業施設等の職員・農業者	学生がフィールドスタディを通じて、課題解決に向けた実践的な地域づくりのあり方を学ぶ。
病院・施設等の実習指導者	学生が作業療法士に必要な能力を身につけるため、臨床現場の実習指導者の指導の下、担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムの立案を行う。

文部科学省高等教育局高等教育段階の教育費負担軽減新制度プロジェクトチーム、高等教育段階の教育費負担軽減 高等教育の負担軽減方策に関する説明会（専門学校関係者向け） 参考資料 平成 30 年 11 月 22 日を参考に作成

## IV. 教務情報システム CampusSquare によるシラバス登録方法

1. 大分大学ホームページにアクセスしてください。
2. 大分大学ホームページの左下にある「学生・教職員専用」の「教務情報システム」リンクをクリックしてください。
3. 「教務システム ログイン」の上の画像をクリックしてください。
4. 情報基盤センターから提供されている統合アカウントの利用者IDとパスワードを「ユーザ名」と「パスワード」欄にそれぞれ入力し、「ログイン」ボタンをクリックしてください。
5. 「CampusSquare for WEB」のメニュー画面が表示されます。メニューが表示されない場合には、左上の [≡] ボタンを押してメニューを表示させておきます。左側のメニューの「シラバス」をクリック後、「シラバス登録」を選択してください。以下のように、シラバス登録対象の科目のリストが表示されます。
6. 「年度」欄のプルダウンメニューから、登録するシラバスの年度を選んでください。
7. シラバスを登録したい科目の登録列にある「登録」ボタンをクリックしてください。

シラバス登録/担当時間割一覧

シラバスを入力する時間割の登録ボタンをクリックしてください。

年度: 20 → 選択した年度の時間割が表示されます。

No.	シラバスID	所属	科目コード	科目名	登録	登録期間
1	48	教養教育	A1900000		保 登録	2024/11/13 - 2024/12/31
2	65	教養教育	A1000009	創造的思考法	保 登録	2024/11/13 - 2024/12/31
3	65	教養教育	A1000009		保 登録	2024/11/13 - 2024/12/31
4	65	教養教育	A1000009		保 登録	2024/11/13 - 2024/12/31
5	80	教養教育	A1000011		保 登録	2024/11/13 - 2024/12/31
6	85	教養教育	A1000011		保 登録	2024/11/13 - 2024/12/31
7	89	教養教育	A1000012		保 登録	2024/11/13 - 2024/12/31

★登録ステータス(状況)の説明★

コード	説明
未	未着手 シラバスの登録が一度も行われていない状態
保	一時保存 シラバスが登録されているが確定されていない状態
確	確定済み シラバスの登録が確定されている状態

8. 次のように、シラバス登録画面が表示されます。まずは、基本情報を入力してください。「インポート」ボタンをクリックすると、他のシラバス情報を複写することが可能です。

基本情報	
シラバスID	65
科目コード	A1000009
ナンバリング	AA42G1
科目名	創造的思考法
学年 / 全角60文字以内	1・2・3・4
学部 / 全角300文字以内	教・経・医・理工・福
学期 / 全角60文字以内	前学期
担当教員 / 全角400文字以内	
E-mail / 全角500文字以内	@oita-u.ac.jp
内線 / 全角200文字以内	
選択/必修 / 全角60文字以内	選択
大分を創る科目	<input type="radio"/>
授業形式	対面
主に使用する言語	<input checked="" type="radio"/> 日本語 <input type="radio"/> 英語 <input type="radio"/> 英語以外の外国語
その他に使用する言語	<input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 英語以外の外国語
担当形態	<input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/> 複数(共同) <input type="checkbox"/> オムニバス <input type="checkbox"/> クラス分け

### 一時保存

途中で入力を保存しておきたい場合には、一時保存することができます。一番下まで画面をスクロールするか、「一番下へ」のリンクをクリックすると、以下のようなメニューが表示されます。「一時保存」が選択されている状態で、「保存」ボタンをクリックしてください。

更新状況	
<input checked="" type="radio"/> 一時保存	<input type="radio"/> 編集完了
<b>保存</b>	現在の入力情報を保存します 印刷は確認画面から行うことができます
クリア	現在の入力情報をクリアします
削除	入力中のシラバス情報を削除します

## 必須項目、文字数制限

本手引きの1ページに示す様式にも示すように、必須項目や文字数制限のある項目があります。必須項目が未入力であったり文字数制限を超過したりしている場合には、「編集完了」の保存の際に以下のようなエラーが表示されますので、修正をお願いいたします。

「入力エラーがあります。」と表示される場合は、入力エラーのある場所に、内容が表示されています。以下の例では、「担当形態」が選択されていない場合のエラーメッセージです。

### シラバス登録

入力エラーがあります。  
授業の概要は全角383文字、半角766文字以下で入力してください。

**講義概要**

インポート過去のシラバスを複写します

担当形態

- 単独
- 複数(共同)
- オムニバス
- クラス分け

担当形態を1つ以上選択してください。

9. 講義スケジュール以下の各項目に情報を入力してください。

講義スケジュール																										
<b>授業の概要</b> /各全角383文字以内		情報を整理・視覚化し、新たな発想を生み出すための手法について学ぶ。本科目で扱う内容は、企画、会議、レポート・論文作成、プレゼンテーション、読書、人材育成、質問紙法の自由記述や口頭による自由回答の分析など、様々な場面で応用できる。大学生活や大分の地域活性化に関するテーマでアイデアを出し、グループによるブレインストーミングを経て、創造的思考ができるようになることをめざす。																								
<b>具体的な到達目標</b> /各全角58文字以内  (学部共通DP) [DP1]専門的知識・技能の活用 [DP2]コミュニケーション能力 [DP3]創造的問題解決力 [DP4]社会的責務と倫理 [DP5]地域発展・人福祉への貢献 [DP6]生涯学習力 [DP7]豊かな看護観(看護学科のみ)  (研究科共通DP) [DP1]高度な知識と知的能力 [DP2]確かな研究マネジメント能力 [DP3]社会を牽引する能力		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="7">DP項目との対応</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>DP 1</th> <th>DP 2</th> <th>DP 3</th> <th>DP 4</th> <th>DP 5</th> <th>DP 6</th> <th>DP 7</th> </tr> </thead> </table>									DP項目との対応									DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7
				DP項目との対応																						
				DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7																
		目標 1	マインドマップを用いて、情報の整理・視覚化し、	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																
		目標 2	ブレインストーミングの意味や意義を説明できる。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																
		目標 3	ブレインストーミングによって、アイデアを創出	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																
		目標 4	KJ法を用いて情報を視覚化・整理し、アイデア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																
		目標 5	大分の地域活性化を題材に、アイデアを創出で	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																
		目標 6		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																
		目標 7		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																
		目標 8		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																
目標 9		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
目標 10		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
各DPへの関連度 (計10)		1	2	6		1																				
<b>授業の内容</b> /各全角74文字以内 ● 15回 ● 30日		1	【ブロック1】オリエンテーション、マインドマップ練習：「しあわせ」マインドマップを作成す																							
		2	マインドマップとは、Xmindの使い方：Xmindで「しあわせ」マインドマップを作成する。																							
		3	自己分析マインドマップ：自分自身についてのマインドマップを作成する。																							
		4	読書マインドマップ：1冊の本からマインドマップを作成する。																							
		5	マインドマップのまとめ【課題1】																							
		6	【ブロック2】ブレインストーミング (1)：グループで大学生活に関する順番ブレインストーミ																							
		7	ブレインストーミング (2)：グループで大分の地域活性化に関する順番ブレインストーミング																							
		8	【ブロック3】KJ法一紙切れ作り・紙切れ集め・表札づくり：ブレインストーミングの結果を																							
		9	KJ法—グループのグループ化・空間配置：A型図解化の空間配置をする。																							
		10	KJ法—関係線の描画：A型図解化を完成させる。【課題4】																							
		11	KJ法—B型文章化：B型文章化で発想する。【課題5】																							
		12	【ブロック4】KJ法 (2) —A型図解化：大分の活性化に関するブレインストーミングの結果を																							
		13	KJ法 (2) —A型図解化 (2)：A型図解化を完成させる。【課題6】																							
		14	KJ法 (2) —B型文章化：B型文章化で発想する。【課題7】																							
		15	総まとめと最終課題【課題8】																							
		16																								



<p>アクティブラーニングの 具体的な内容 /全角125文字以内</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> A.知識の定着・確認  <input checked="" type="checkbox"/> B.意見の表現・交換  <input type="checkbox"/> C.応用志向  <input type="checkbox"/> D.知識の活用・創造</p> <p>演習、小テスト、チェックリスト・ルーブリックによる自己評価、グループ・ペアでの共同作業、発表ミニッツペーパー、マインドマップ、ブレインストーミング、KJ法</p>																																																																																																													
<p>その他の授業の工夫 /全角110文字以内</p>	<p>アイズブレイク、動画の活用、LMS (Moodle) の活用、タスクは各自のペースで実施</p>																																																																																																													
<p>授業時間外学修の内容と想定時間 /準備学修：全角140文字以内 事後学修：全角140文字以内 想定時間合計：半角数字3文字以内 (単位は時間)</p>	<p>準備学修</p>	<p>配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(8h)。ブレインストーミングの準備を要する(3h)。</p>																																																																																																												
	<p>事後学修</p>	<p>授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。マインドマップの課題(10h)、KJ法A型図解化(20h)、KJ法B型文章化(4h)。小テストや配布資料を用いて復習する。</p>																																																																																																												
	<p>想定時間合計</p>	<p>45</p>																																																																																																												
<p>教科書 /全角216文字以内</p>	<p>教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントや小冊子を使用する。</p>																																																																																																													
<p>参考書 /全角216文字以内</p>	<p>川喜田二郎『読・発想法—KJ法の展開と応用(中公新書 210)』中央公論新社、1970年、ISBN9784121002105 トニーブザン・パリーブザン(著)、近田美季子(翻訳)『新版ザ・マインドマップ—脳の無限の可能性を引き出す技術』ダイヤモンド社、2013年、ISBN9784478017166</p>																																																																																																													
<p>成績評価の方法及び評価割合 /各評価方法全角42文字以内 自由記述欄全角150文字以内</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>評価割合</th> <th>目標1</th> <th>目標2</th> <th>目標3</th> <th>目標4</th> <th>目標5</th> <th>目標6</th> <th>目標7</th> <th>目標8</th> <th>目標9</th> <th>目標10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マインドマップ [課題1]</td> <td>25 %</td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>5 %</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>ブレインストーミング [課題]</td> <td>10 %</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>KJ法A型図解化 [課題4・6]</td> <td>30 %</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>KJ法B型文章化 [課題5・7]</td> <td>20 %</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>最終課題 [課題8]</td> <td>10 %</td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td></td> <td>%</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td></td> <td>%</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table>	評価方法	評価割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	マインドマップ [課題1]	25 %	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	小テスト	5 %	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ブレインストーミング [課題]	10 %	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	KJ法A型図解化 [課題4・6]	30 %	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	KJ法B型文章化 [課題5・7]	20 %	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	最終課題 [課題8]	10 %	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		%	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		%	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<p>すべての小テストおよびすべての課題の合格を単位取得の条件とする。</p>
	評価方法	評価割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																		
	マインドマップ [課題1]	25 %	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
	小テスト	5 %	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
	ブレインストーミング [課題]	10 %	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
	KJ法A型図解化 [課題4・6]	30 %	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
	KJ法B型文章化 [課題5・7]	20 %	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
	最終課題 [課題8]	10 %	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
	%	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																			
	%	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																			
<p>注意事項 /全角144文字以内</p>	<p>「情報処理入門」も履修済みか履修中であること。</p>																																																																																																													
<p>備考 /全角144文字以内</p>	<p>コンピュータ教室を使用するため、履修希望者が教室の収容人数を超える場合には抽選を実施する。</p>																																																																																																													
<p>リンク /説明：全角72文字以内 URL：半角135文字以内</p>	<p>説明</p>	<p>授業についての詳細な内容については、以下のページを参照すること。</p>																																																																																																												
	<p>URL</p>	<p><a href="https://sample.oita-u.ac.jp/course/20xx/cts/">https://sample.oita-u.ac.jp/course/20xx/cts/</a></p>																																																																																																												

10. 実務経験のある教員が担当する科目、教員以外で実務経験者が指導に関わる科目（担当教員以外のゲストスピーカーや実習先の指導者等に実務経験がある場合）、またはその両方を満たす科目である場合には、追加情報欄に入力してください。

追加情報	
担当教員の実務経験の有無 /Does teaching instructor have practical experience? /1者択1	<input type="radio"/>
教員の実務経験 /Practical experience of instructor /72文字以内	<input type="text"/>
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 /Will others with practical experience besides instructors participate? /1者択1	<input type="radio"/>
教員以外の指導に関わる実務経験者 /Others with practical experience who will participate /72文字以内	<input type="text"/>
実務経験をいかした教育内容 /Contents to be taught that make use of practical experience /216文字以内	<input type="text"/>

11. 完成したら、最後に「編集完了」を選択して、「保存」ボタンをクリックしてください。

更新状況	
<input type="radio"/> 一時保存	<input checked="" type="radio"/> <b>編集完了</b>
<b>保存</b>	現在の入力情報を保存します 印刷は確認画面から行うことができます
<b>クリア</b>	現在の入力情報をクリアします
<b>削除</b>	入力中のシラバス情報を削除します

※「編集完了」すると、修正ができなくなります。修正が必要な場合は、以下までお問い合わせください。

教養教育科目： 教育支援課教育推進グループ

専門教育科目： 学部の学務係・学務課

12. シラバスの登録の作業を終了する際には、左側メニューの「ログアウト」ボタンをクリックしてください。

本手引き（PDF 形式）およびシラバス様式（Word 文書形式）は、  
以下のページからダウンロードできます。

<https://otl.iem.oita-u.ac.jp/syllabus/>



### シラバス作成の手引き

3.71	2025 年 1 月 21 日
3.6	2024 年 11 月 27 日
3.5	2023 年 12 月 21 日
3.4	2021 年 12 月 22 日
3.3	2020 年 12 月 14 日
3.21	2019 年 12 月 27 日
3.0	2018 年 12 月 28 日
2.0	2018 年 12 月 25 日
1.5	2018 年 10 月 26 日
初版	2018 年 8 月 28 日

大分大学 教育マネジメント機構 教学マネジメント室

(旧高等教育開発センター)

teaching@oita-u.ac.jp